

## オリンパスが解決する社会課題



**世界初**  
胃カメラの実用化



**70%**  
消化器内視鏡シェア\*1

\*1 2020年11月現在

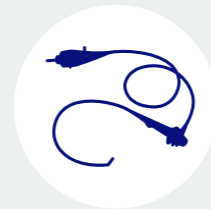
オリンパスは、「胃がんをなんとか治したい」という医師の願いを実現するため、1950年に世界初の実用的な胃カメラを開発しました。それから現在に至るまで、医師との二人三脚で内視鏡技術の改良を進め、診断・治療方法を充実させてきました。内視鏡医のニーズに応え、世界をリードし続けてきた高い技術力は当社製品の優位性の一つとなっており、現在、主力の消化器内視鏡では世界シェア約70%を誇っています。

内視鏡は、がんを発見し、治療する上で重要な役割を果たしています。例えば、大腸がんは、2020年のデータでは年間約190万人の方が新たに罹患し、約90万人の方が亡くなっていると報告されており、今後もこの数は増加が見込まれます。大腸がんは、がんが広がっていない初期の段階で見つければ治る確率が大幅に高まります。一方、早期の大腸がんは自覚症状がないことが多く、がん検診は早期発見・早期治療のために非常に重要です。この大腸がんの診断・治療等のために大腸内視鏡検査は年間で約5,000万件実施されており、そのうち多くで当社の製品が使われています。



**190万人**  
大腸がんの罹患数/年\*2

\*2 年間罹患患者数・グローバル  
出典:GLOBOCAN 2020



**5,000万件**  
大腸内視鏡件数/年\*3

\*3 自社調べ。グローバル:米国、カナダ、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、英国、日本、中国、韓国、オーストラリア、インド/データは地域により2018年あるいは2019年時点

また、内視鏡は病変の発見や診断だけでなく、処置、治療にも活用されます。消化器内視鏡に挿入して使用する内視鏡用処置具以外にも、泌尿器科・呼吸器科などさまざまな診療科に向けた多種多様な治療機器を提供しており、当社の製品で約100の疾患に適応させることができます。罹患患者数の多い上位5つのがんのうち、4つのがん(肺がん、大腸がん、前立腺がん、胃がん)\*5への治療方法を提供するとともに、その他のがんの治療機器の開発も行い、世界の人々の健康のために貢献しています。

\*4 2021年3月現在

\*5 2021年3月現在

出典:GLOBOCAN2020 罹患患者数1位の乳がんを除く



**100**  
適応可能な疾患数\*4



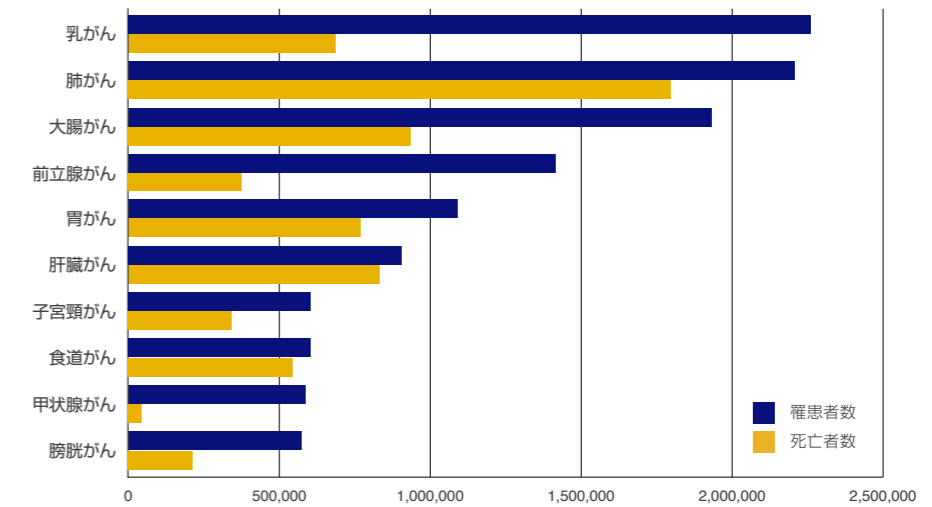
**罹患数の多い  
がん**  
治療機器を提供\*5

## 〈参照データ〉

出典:GLOBOCAN 2020©International Agency for Research on Cancer 2021

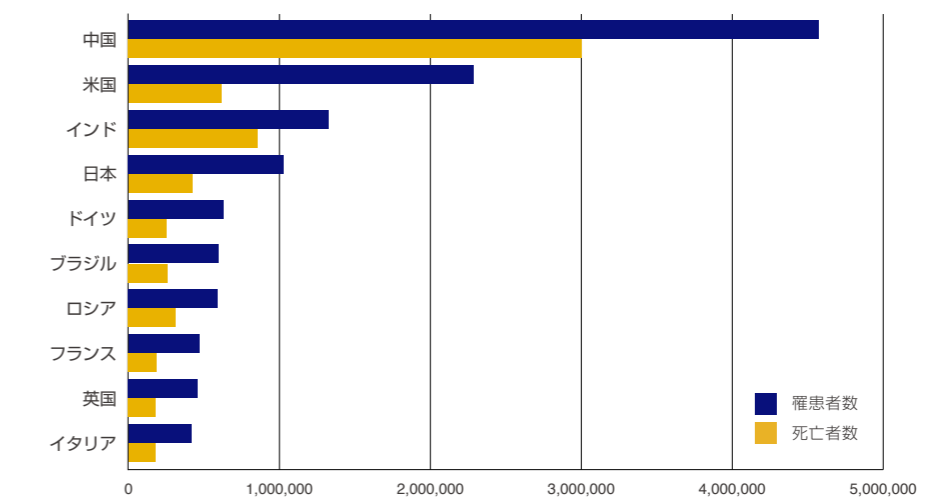
### 世界のがん発生件数(部位別)

世界中の男女、すべての年齢における罹患患者数および死亡者数の推定



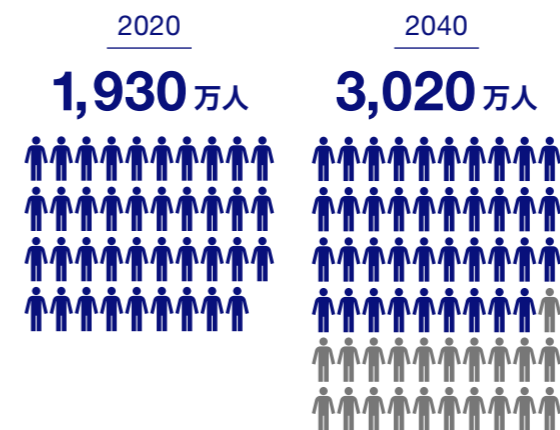
### 世界のがん発生件数(国別)

世界中の男女、すべての年齢における罹患患者数および死亡者数の推定



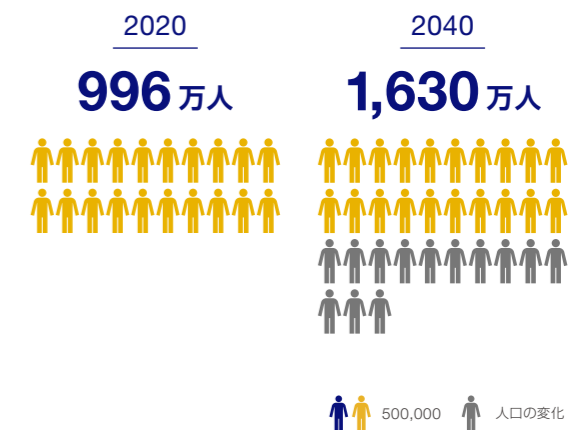
### がん患者数(2020年/2040年比較)

世界中の男女、すべての年齢における2020年から2040年までの推定新規患者数(すべてのがん)



### がんによる死亡者数(2020年/2040年比較)

世界中の男女、すべての年齢における2020年から2040年までの推定死亡者数(すべてのがん)



500,000 人口の変化